

## 平成28年漁期 さば類漁獲可能量(TAC)案について

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考	
		水準	動向	25年	26年	27年	28年	漁獲シナリオ (管理基準)	25年	26年	27年	28年 (案)		
さば類	<p>【中期的管理方針】</p> <p>まさばの太平洋系群については、近年の海洋環境が当該資源の増大に不適な状態にあると認められないことから、優先的に資源の回復を図るよう、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p> <p>ごまさばの太平洋系群については、資源を中位水準以上に維持することを基本方向として、管理を行うものとする。</p> <p>まさばとごまさばのその他の系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、外国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみの管理では限界があることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとする。また、まさばについては資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>													
	まさば	太平洋	低位	増加	27.1	47.8	54.0	38.3	親魚量の回復 (②)					
		対馬暖流	低位	横ばい	34.1 (14.6)	29.6 (13.3)	18.3 (8.4)	19.1 (8.7)	親魚量の回復 (③)					
	ごまさば	太平洋	高位	横ばい	23.4	24.3	24.2	31.4	親魚量をBlimit以上で維持・漁獲量の増加(③)					
東シナ海		中位	横ばい	5.9 (5.0)	5.8 (4.8)	4.9 (3.9)	4.7 (3.8)	親魚量の維持 (②)						
合計				90.5 (70.1)	107.5 (90.2)	101.4 (90.5)	93.5 (82.2)		70.1	90.2	90.5	82.2	※TACの管理期間は、「7月～翌年6月」	

注) 下段( )書きについては、日本EEZの値。我が国EEZにおける漁獲割合から算出。

【資源評価結果】

まさば	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2016年漁期漁獲量 (万トン)	評価		2014年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に2014年親魚量を維持する確率	5年後にBlimitに回復する確率		
太平洋系群	低位	増加	<Blim	ABClimit *① 漁獲圧維持(Fcurrent)	33.8	100%	99%	336千トン	親魚量 450千トン
				*② 親魚量の回復(B/Blimit×Fmed)(Frec)	38.3	98%	93%		
対馬暖流系群	低位	横ばい	<Blim	ABClimit *① 親魚量の増大(B/Blimit×Fmed)(Frec2)	13.2	100%	100%	120千トン	親魚量 250千トン
				*② 親魚量の増大(F30%SPR)	14.1	100%	98%		
				*③ 親魚量の回復(5年でBlimitへ回復)(Frec1)	19.1	92%	52%		

注) \*のついたシナリオが、中期的管理方針に合致する。

資源評価結果

ごまさば	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2016年漁期漁獲量 (万トン)	評価		2014年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に資源量高位水準を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
太平洋系群	高位	横ばい	>Blim	ABClimit *① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	18.3	100%	100%	397千トン	親魚量 38千トン
				*② 親魚量を高水準で維持(F30%SPR)	23.2	100%	100%		
				*③ 親魚量をBlimit以上で維持・漁獲量の増加(F20%SPR)	31.4	100%	100%		
ごまさば	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2016年漁期漁獲量 (万トン)	評価		2014年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に2014年親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
東シナ海系群	中位	横ばい	>Blim	ABClimit *① 親魚量の増大(F30%SPR)	3.6	100%	100%	38千トン	親魚量 33千トン
				*② 親魚量の維持(Fmed)	4.7	61%	76%		

注) \*のついたシナリオが、中期的管理方針に合致する。